

2026年度 郡山女子大学短期大学部入学者選抜における 入学者受入方針および入試内容等について (アドミッション・ポリシー)

【基本方針】

本学の入学者選抜は「建学の精神」に基づき、生徒が高等学校段階までに身につけた力を本学において発展・向上させ、社会へ送り出すという短期大学教育の一貫したプロセスを前提として、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)や教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ定める入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、本学において学修し、卒業するために、短期大学への入口段階で入学者に必要な能力・適性等を多面的・総合的に評価・判断することを役割とするものです。

あわせて本学の入学者選抜は、高等学校における教育と短期大学における教育を接続する教育の一環として実施するものです。

能力・意欲・適性等の評価・判定にあたっては、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の三つの要素のそれぞれを適切に把握するよう十分留意します。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮します。

- ①知識・技能(基礎的・基本的な知識・技能)
- ②思考力・判断力・表現力(知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力)
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

本学の選抜においては、学力の3要素を多面的・総合的に評価するために、基礎能力調査、調査書、活動報告書、入学希望理由書等出願時における書類、面接、小論文、プレゼンテーションを実施します。また、選抜に関し、以下のことを追加事項とします。

○「知識・技能」を評価する観点から、入学後、大学教育を学ぶために必要な学力を有していることを出願要件とします。学校推薦型選抜においては、面接と基礎能力調査を行い、評価します。

○「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から面接を行います。また、一般選抜においては、個別学力試験で記述式問題を出題します。総合型選抜においては、健康栄養学科と地域創成学科でオープンキャンパス等に行う学科別個別相談にて、相談カルテを作成し対応します。

○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から、「入学希望理由書」、「活動報告書」および「調査書」等の提出を求めます。資格や校内・校外活動における目的や意欲を評価します。

人材養成の目的 3つの方針

- 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)
- 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
- 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神

尊 敬	責 任	自 由
お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること。そして他者においてそれを認めること。	人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもちうること。	学園の規則を守りながら、個人の求める、あらゆる自由な発想と研究とで個性豊かな人格を作ること。

入学者選抜の実施方針

本学は、学力を構成する重要な要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

健康栄養学科

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

建学の精神「尊敬」「責任」「自由」に立脚し、期待される社会人になれるよう人間性を育み、知性および感性の向上を目指すとともに、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を図ることを教育の目的としています。また、栄養士課程をもうけ、食と栄養に関する豊かな知識と確かな技術を通して、これからの社会に貢献できる栄養士を養成することを目標としています。

1. 求める学生像

- 食、栄養および健康に関心を持っている人。(思考力・判断力・表現力)
- 調理の知識や技術の習得に積極的な人。(知識・技能)
- 本学科で学ぶ科目を理解するための、基礎学力を身につけている人。(知識・技能)
- 自分の考えを伝えることができるコミュニケーション能力がある人。(思考力・判断力・表現力)
- 思いやりの心を持ち、サービス精神を理解して多くの人々と協働できる人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

2. 求める学習の成果

- 短大で、教養科目や専門科目を学ぶ上で重要となる、読解力・語彙力などの「国語力」や割合(比率)の計算、パーセントを用いた濃度計算などの「計算力」の基礎的な知識を身につけていること。また、「生物基礎」や「化学基礎」に関する基礎学力についても十分に身につけておくこと。
- 自分の考えを言葉や文章、あるいは料理や指導媒体などのかたちとして示すことができる表現力を有していること。
- 読書や趣味を通して主体的また自主的に学ぶ意欲を持ち、さまざまな課題に向かい合い問題を解決に導く指導ができる思考力や判断力を有していること。
- 食の専門家として人間の健康と食生活をサポートするために、ボランティア活動などを通してサービスの精神を理解し、積極的に多様な人々と協働することができること。

総合型選抜

【総合型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、他に優る自己の特長を適切に表現でき、食と健康に関する学習・活動・社会活動などの経験に向け努力している人材を求めます。

- 小論文は、食や健康に関したテーマについて論じた内容を「思考力、判断力、表現力」の観点から評価します。
- 面接では、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」および「主体性を持ってさまざまな人々と協働して学ぶ態度」を評価します。そのため「高校生活で力を入れたこと」「高校での活動実績」「特技」等を裏付け自己アピールできる作品や資料を持参してください。アドミッション・ポリシーとの適合性についてもあわせて評価します。オープンキャンパスにおいて学科個別相談で作成する「相談カルテ」を、面接の参考資料として活用します。「相談カルテ」は、その学科個別相談時に配布します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」についても、面接の参考資料として活用します。
- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、目標に向かって主体的に学ぶ姿勢を持ち、食と健康に関する学習・活動・社会活動などの経験に向け努力している人材を求めます。

- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。
- 特別特待生・特待生での出願者に対しては「国語」と「家庭」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。

健康栄養学科入試区分と入試内容

入試区分		入試内容	小論文*1	基礎能力調査*2	面接	個別学力試験
総合型選抜			○		○	
学校推薦型選抜	指定校				○	
	公募				○	
	専門学科・総合学科				○	
	特別特待・特待			○	○	
社会人・特別選抜					○	
一般選抜						○
大学入学共通テスト利用選抜		※指定する科目の点数で判定します。				

*1…詳細はP.16で確認してください。 *2…詳細はP.27で確認してください。

社会人・特別選抜

社会人、高等学校卒業程度認定試験合格者、外国人留学生、帰国子女は面接で評価します。

- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。

高等専門学校生・専修学校高等課程生は調査書、活動報告書、面接で評価します。

- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

一般選抜

- 「国語」の学力試験において、「基礎知識」と「思考力」について評価します。
- 「調査書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および「自主性」や「主体性」、学習成績の状況について評価します。

大学入学共通テスト利用選抜

- 学科の特性に合う知識と思考力を、大学入学共通テスト「国語」の得点で評価します。
- 「調査書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および「自主性」や「主体性」、学習成績の状況について評価します。

教育課程編成方針
(カリキュラム・ポリシー)

健康栄養学科は、食と栄養に関する専門知識と実践力からなる専門性を発揮して、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を進めています。この教育目的を果たすため、社会の期待に応える栄養士の養成を教育目標とします。このため、次のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)により、「単位の実質化」に配慮して入学から卒業まで効果的な学修が行えるようカリキュラムを編成しています。

1. 「建学の精神」と専門科目の理解に必要な共通基礎科目、食と栄養に関する基本的な専門科目を卒業必修科目として開講します。
2. 「建学の精神」に基づく人格形成と専門の探求のための科目を選択科目として開講します。
3. 栄養士の養成を目標に栄養士課程を設け、必要な科目を課程の必修科目として開講します。
4. 栄養士課程の必修科目で栄養士業務の実務を学ぶ給食論実習Ⅲ(校外実習)には履修要件を設けて、履修する学生のレベルを対外的に保証します。
5. 高等学校までの復習を含む基礎的科目として、基礎自然科学、自然科学(生物)、自然科学(化学)を1年次に必修科目として開講します。
6. 基本的な科目から応用的な科目へと系統的に学べるように開講時期を配置します。
7. 卒業学年の12月に実施される栄養士実力認定試験に対応できるよう開講時期を調整します。

学位授与方針
(ディプロマ・ポリシー)

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士(家政学)の学位を授与します。

1. 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
2. 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身についている。
3. 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身についている。
4. 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。
5. 卒業要件を満たし、GPA1.6以上を修めている。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけでなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{修得単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{総登録単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、良い成績が取れるよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される「単位履修の手引き」を確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基に、豊かな人間性を備えた保育者の育成を目指します。

幼児教育学科では、幼稚園教諭と保育士の養成を目的とし、そのために幅広い専門知識と技術を身につけた人物を育成します。

1. 求める学生像

- 適切な言葉遣いに努め、さらに国語力を向上させる人。(知識・技能)
- 子どもに向けた真摯で優しいまなざしと、保育に対する深い探究心を備えた人。(思考力・判断力・表現力)
- 自らを取り巻く自然や文化、人々の心情等に対する感受性を豊かに育む人。(思考力・判断力・表現力)
- 子どもを愛し、笑顔で子どもの心に寄り添える人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 志を同じくする仲間とともに、学びを深めることができる人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、音楽的経験が豊かな人。(知識・技能)

2. 求める学習の成果

- 高校で学ぶすべての教科の標準的な知識や技能を土台とし、特に国語については、読解力・漢字の読み書き・文章表現について基本的な知識を身につけている。
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、基礎的な歌唱力や楽器の演奏技術を身につけている。
- 高校(または出願まで)での学びや体験を通して培われたものを土台に、それを保育や大学の学びにどのように生かしていくかについて明確に述べるができる。

※3年履修コースを希望する方は、出願時に「幼児教育学科3年履修コース申請書[Q]」を提出してください。

総合型選抜

【総合型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、幼児教育に関する学習、活動、あるいは社会活動といったことを経験しており、自分の魅力や強みを土台として、大学での学びに活かしていける人材を求めます。

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。プレゼンテーションについては、高校での活動実績や特技等を裏付けのものを持参して説明・披露するか実演してください。
- 「入学希望理由書」・「活動報告書」は、面接の参考資料として活用します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、他者の善さを尊重し、互いに高め合うことができ、高校での特色ある学びを大学生活でも発揮できる人材を求めます。

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 基礎能力調査(絵本の読み聞かせ)は、面接内で実施します。
- さらに、特別特待生・特待生では、基礎能力調査(現代の国語)を実施します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- 「入学希望理由書」・「活動報告書」は、面接の参考資料として活用します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

社会人・特別選抜

- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- 「入学希望理由書」・「活動報告書」は、面接の参考資料として活用します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

一般選抜

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価するとともに、一般選抜の国語試験では、長文読解力・漢字を含む語彙力・思考力・文章作成力などを評価します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

幼児教育学科入試区分と入試内容

入試区分		入試内容	基礎能力調査*1 (絵本の読み聞かせ)	基礎能力調査*2 (「現代の国語」筆記試験)	面接	個別 学力試験
総合型選抜					○*3	
学校推薦型選抜	指定校		○		○	
	公募		○		○	
	専門学科・総合学科		○		○	
	特別特待・特待		○	○	○	
社会人・特別選抜			○		○	
一般選抜						○
大学入学共通テスト利用選抜		※指定する科目の点数で判定します。				

*1…面接内で実施する「絵本の読み聞かせ」のこと。詳細はP.28を参照ください。

*2…「現代の国語」筆記試験のこと。詳細はP.28を参照ください。

*3…総合型選抜の面接にはプレゼンテーションを含みます。

●チャイルド・ミュージックコースを受験する際は音楽経験度調査があります。

教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

教育・保育の本質を理解する専門知識と技能、幅広い教養を身につけた保育者を育成するため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- 教育・保育の内容・方法を学ぶ科目を設けます。
- 教育・保育を総合的に計画・実践するための科目を設けます。
- 子どもの発達を理解し、子どもの支援について学ぶ科目を設けます。
- 教育・保育の問題を解決する能力を育成するために「卒業研究」を必修とします。またチャイルド・ミュージックコースにおいては、全員ミュージカルを選択します。
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、音楽の専門科目を設けます。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけ、GPA1.5以上の学生に対して卒業を認定し、短期大学士(教育学)の学位を授与します。

教育・保育の本質を理解し、保育者としての専門性を身につけている。専門性とは下記のとおりである。

- 教育・保育を総合的に計画して実践できる力を身につけている。
- 多様な子どもを支援するための方法や技術を身につけている。
- 教育・保育に関する課題や問題を解決する能力が育っている。
- 幅広い教養を身につけ他者と関わる力を身につけている。
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、一定水準以上の音楽表現力が身につけている。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけではなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPAが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数} \times 2) \times (\text{GP} \times 3)}{(\text{総登録単位数} \times 2)}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。

実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、良い成績が取れるよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される「単位履修の手引き」を確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基に、地域文化の新しい価値を創造する人物の育成を目指します。

地域連携教育を中心とした3学系(文化・歴史系、アート&デザイン系、ビジネス・情報系)の多彩な学びにより創造力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけます。また図書館や博物館、美術館などの文化施設で働く専門職、印刷関係の専門職、ビジネス実務や情報処理の専門職、社会福祉主事、デザイナー、美術作家など多様な専門分野を複合的に学ぶことで社会貢献の目的意識に合った能力を持つ人物を育成します。

1. 求める学生像

- 目標に向かって、着実な努力を継続して行える人。
- 地域社会の一員として、自己の能力と個性を生かし、人や社会に貢献する意識を持つ人。
- 物事に幅広い関心を持ち、多面的に捉えようとする人。
- 人と地域のつながりを大切にし、学んだことを地域に発信できる人。

2. 求める学習の成果

- 入学後の多様な学びが深められるよう、「高校までのすべての教科について標準的な知識や技能」を身につけていること。
- 求められる課題や問題に取り組むための「基礎的な思考力、判断力、表現力等」を身につけていること。
- 主体的・対話的な学びに必要な「多様な人々と協働して学ぶ態度」を有し、地域社会に貢献するために様々な場面において積極的であること。

総合型選抜

【総合型選抜の志願者に求める受入方針】

上記学科の受入方針とともに、「総合的な学習の時間」や「課外活動」「ボランティア活動」などで地域連携や地域貢献に関する学習や学外活動を行った経験があり、本学で継続的に学ぼうとする強い意志を持ち、仲間との協調性を大切にしていける人材を求めます。

- 調査書は評定平均値を数値化して「知識・技能の確実な習得」を評価します。
- 「小論文」(出願書類とともに郵送)または「制作した作品2点」(選抜日に持参)のいずれかについて「思考力・判断力・表現力」を観点とした評価を行います。
- 「小論文」または「制作した作品2点」のいずれかについてのプレゼンテーションおよび面接に重点を置き「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。さらに、アドミッション・ポリシーとの整合性、進学後に「主体的な学び」を継続して行える人物であるかを評価します。なお、オープンキャンパスにおける学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。
- 活動報告書は、各種検定および資格、生徒会や委員会等の学内活動、部活動の継続および活動成績、ボランティアやその他の学外活動の実績を数値化して評価します。
- 入学希望理由書は、面接の参考資料として活用します。

学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針】

上記学科の受入方針とともに、本学での多様な学びを探究できる基礎的な学力とコミュニケーション力を備え、創意工夫の視点を持って積極的に行動できる人材を求めます。

- 調査書は評定平均値を数値化して「知識・技能の確実な習得」を評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーとの整合性、本学科の特性を踏まえた「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を観点とした評価を行います。また「活動報告書」をもとに、高校生活で培ってきたものを、進学後にどのように「主体的な学び」につなげていくかを述べてください。
- 基礎能力調査(国語)において、「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 活動報告書は、各種検定および資格、生徒会や委員会等の学内活動、部活動の継続および活動成績、ボランティアやその他の学外活動の実績を数値化して評価します。
- 入学希望理由書は、面接の参考資料として活用します。

社会人・特別選抜

社会人、高等学校卒業程度認定試験合格者、外国人留学生、帰国子女は面接と基礎能力調査で評価します。

- 面接では、アドミッション・ポリシーとの整合性、本学科の特性を踏まえた「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を観点とした評価を行います。また、それぞれが経験してきたことを進学後にどのように「主体的な学び」につなげていくかを述べてください。
- 基礎能力調査(国語)において、「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 入学希望理由書は、面接の参考資料として活用します。

高等専門学校生、専修学校高等課程生は調査書、面接、基礎能力調査で評価します。

- 調査書は評定平均値を数値化して「知識・技能の確実な習得」を評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーとの整合性、本学科の特性を踏まえた「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を観点とした評価を行います。また「活動報告書」をもとに、高校生活で培ってきたものを、進学後にどのように「主体的な学び」につなげていくかを述べてください。
- 基礎能力調査(国語)において、「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 活動報告書は、各種検定および資格、生徒会や委員会等の学内活動、部活動の継続および活動成績、ボランティアやその他の学外活動の実績を数値化して評価します。
- 入学希望理由書は、面接の参考資料として活用します。

一般選抜

- 基礎学力(知識・技能)として、調査書の評定平均値を数値化して評価するとともに、国語の学力試験の得点を用いて評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーとの整合性、本学科の特性を踏まえた「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を観点とした評価を行います。また「活動報告書」をもとに、高校生活で培ってきたものを、進学後にどのように「主体的な学び」につなげていくかを述べてください。
- 調査書は、各種検定および資格、生徒会や委員会等の学内活動、部活動の継続および活動成績、ボランティアやその他の学外活動の実績を評価します。

大学入学共通テスト利用選抜

- 基礎学力(知識・技能)として、調査書の評定平均値を数値化して評価するとともに、共通テストの国語の得点を用いて評価します。
- 調査書は、各種検定および資格、生徒会や委員会等の学内活動、部活動の継続および活動成績、ボランティアやその他の学外活動の実績を評価します。

地域創成学科入試区分と入試内容

入試内容		小論文又は制作した作品*1	基礎能力調査*2	面接	プレゼンテーション	個別学力試験
入試区分						
総合型選抜		○		○	○	
学校推薦型選抜	指定校		○	○		
	公募		○	○		
	専門学科・総合学科		○	○		
	特別特待・特待		○	○		
社会人・特別選抜			○	○		
一般選抜				○		○
大学入学共通テスト利用選抜		※指定する科目の点数で判定します。				

*1…詳細はP.16で確認してください。
*2…詳細はP.27で確認してください。

教育課程編成方針
(カリキュラム・ポリシー)

文化、歴史、芸術、情報などの専門の学修を通して、継続的に社会貢献ができる総合的な人間力を持つ人材の育成を目的とします。そのために、地域社会と連携した実践教育(アクティブラーニング)を行うことで、卒業後、地域社会の一員として活躍できるよう、以下の項目を編成しています。

1. 1年次に入門、概論などの基礎教育科目を置き、2年次より専門性に特化した専門教育科目を編成します。
2. 「地域創成ゼミナールⅠ・Ⅱ」「地域創成プロジェクト演習」科目を開講することで、地域社会の創成に力を発揮できる人材を育成します。
3. 2年間の集大成として「卒業研究」などの科目において、自ら問題意識を持って学びを追究することができる探求力を身につけます。
4. 資格取得に必要な科目の多くは卒業要件の科目としても認められ、効率の良い履修が可能となり、多様な資格と知識・技能の修得を目指すカリキュラム編成とします。
5. 司書および学芸員補の資格取得に必要な科目を開講します。また専門職員として必要な歴史・文化関連科目を

- 設置して幅広い教養を学修するための専門的な教育プログラムを実施し、知識と実践力を身につけることを目指します。
6. 芸術と人間社会における諸問題との関係を総合的に捉え、新しい社会に対応してアートやデザインの基礎知識や技術を活用できる教育を実施します。
 7. ビジネス実務士、情報処理士の資格取得に必要な科目を開講し、社会生活に役立つ情報活用能力を身につけます。
 8. 社会福祉主事(任用資格)の資格取得に必要な科目を開講し、ボランティア活動等を通して、専門知識と共に実践的な技能の育成を目指します。

学位授与方針
(ディプロマ・ポリシー)

「建学の精神」に基づく教育目的に従い、以下に掲げる知識や資質を身につけ、所定の単位を取得したGPA1.4以上の学生に対し、短期大学士(地域創成)の学位を授与します。

1. 身近な生活圏の歴史や文化を理解し、専門教育の実践を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。
2. 個々の感性を生かす柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。
3. 地域社会において柔軟に対応できるコミュニケーション

- 力を生かしながら、現代社会の多様な課題を発見し、それらを自らの力で分析し解決する能力を身につけている。
4. 専門的知識を活用しながら論理的に課題を探究し、他者と協調して問題を解決していく主体的行動力を身につけている。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけではなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{修得単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{総登録単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になりますが、良い成績が取れるよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される「単位履修の手引き」を確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし